

平成 29 年度第 2 回愛知県健康づくり推進協議会議事要約

- 【日 時】平成 30 年 2 月 14 日(水) 午前 10 時から正午まで
- 【会 場】愛知県本庁舎 6 階正庁
- 【委 員】出席 13 名、欠席 7 名
- 【事 務 局】16 名
- 【傍 聴 者】なし
- 【内 容】

1 挨拶（愛知県健康福祉部保健医療局長 松本 一年）

○今回の第 2 回の会議においては、平成 25 年 3 月に策定した健康づくりに関する 3 つの計画のうち、健康日本 21 あいち新計画と愛知県歯科口腔保健基本計画については中間評価と見直しを実施した結果を報告書としてお示しし、愛知県がん対策推進計画については、昨年夏に公表された国のがん対策推進基本計画に基づく次期計画書をお示し、御協議いただきたい。

○県民の皆様が生涯を通じていきいきと過ごすためには、食生活や運動などの生活習慣を見直し、主体的に健康づくりに取り組むことのできる環境を、社会全体で整備していくことが重要である。

○委員の皆様のご共通の願いは県民の健康・安全・安心だと思う。そうした共通の願いに向かって、共に考え、行動していきたい。

2 議 題

- (1) 健康日本 21 あいち新計画の中間評価について
- (2) 愛知県歯科口腔保健基本計画の中間評価について
- (3) 第 3 期愛知県がん対策推進計画の策定について

3 その他

<主な意見>

○健康日本 21 あいち新計画の中間評価について、国が指標に関する調査をしていないなどの理由で判定ができない、あるいは保留という言い方をしているものについて、中間評価の時点では評価は実施しなくても、最終年度に調査が出されるかもしれないと考えれば、保留やそういうものの扱い・考え方を最後まで保留とするのか。

○判定保留になっている項目で、たとえば循環器疾患についても国民健康・栄養調査や国からの県版データの公表を待って、最終評価が可能だと思われるので、廃止ではなく、最終評価には非常に重要な項目でもあるため、タイミングを合わせて評価をすることになると思う。国の中間評価においても、ぎりぎりまで待って新しい情報で評価するというところまで待っている。県版が出てくるのは遅れると思うのでズレが生じてしまうが、できる限りのところまで待って、データが入り次第反映させていただくということをお願いしたい。

○歯科の問題は、ライフステージにかなり特化した問題になってくると思われるが、今回あがったものでかなり重要な問題は、歯周病が増えてきており、歯周病の対策が必要であるというのが際立っていることである。高齢化が進むと、長寿の代償でがんが増えるのと同じように、歯が残ると歯周病もまた増えるという、非常に複雑な問題がある。その辺がしっかり浮き彫りになったのではないかと考えて、また対策をたてる方向性が出てくるのではないかと考えている。

○がんに関しては、2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっている。また、ゲノム医療が大きな問題になっている。ゲノム医療は研究が進んでいる反面、治療費が非常にかさむので、現代の日本の医療費から見ると、経済的に多くの問題がある。

○資料 3-2 の P44 の中の目標指標で野菜摂取量の増加が記載されており、1人の人の野菜摂取量を目安として考えているが、野菜を 350g 以上取る人の割合等とする指標も考えられるのではないかと考えている。そういった指標をとれば、対策を立てるときに、野菜を摂れている人と摂れていない人という両極化等の根拠に役に立つ情報が得られるのではないかと考えている。

○野菜については国民健康・栄養調査の個表を見てもかなり差があり、極端に取っていない人がいる。統計データとして整理してないが、健康日本 21 あいち新計画においても野菜の摂取量については問題意識を持っている。概要版の資料 1-1 の P5 にも、若い人たちへの働きかけが大事だということで、健康づくりチャレンジ推進事業を平成 28 年度に始めてトピック的に取り上げている。この事業は 3 年計画であり、今年度が 2 年目、来年度が最終年度になっている。その後の展開をどうしていくかということで、状況を分析して次の方策を考えてい

きたい。

○気になったこととして、COPD、フレイル等の横文字が多く入っている。これらの言葉は認識が十分されていないので、それに関する記述も必要ではないか。

○がんだけではなく生活習慣病全般に関して、子どもの時からの啓発が大事である。がん教育も中学生だけではなく、小学生もがん教育を実施していく方向になっている。歯の問題もそうだが、早くから認識をして予防をしていくことが大事であり、生活習慣全般に関して予防を含めた取組が重要である。

○愛知県のがんセンター中央病院では非常に早い時期から社会保険労務士を配置し、相談支援を実施している。また職業安定所等からも就職支援担当者が派遣されており、現在、多くの職種が関わり、相談を行っている。そのような取組が徐々に広がっているので、計画に取組も記載していきたい。

○高齢の患者以上に、AYA世代や働く世代のがん罹患とその後の社会復帰、結婚等が非常に重要な問題になっている。愛知県のがんセンターだけではなく、全体で研究も進められていると思う。

○歯科の分野になるが、平成30年度から特定健診の質問項目に食事を嚙んで食べる時の状態が入ってくる。そうすると、歯周病とは直接関係なくても、全国2,800万人のデータが集まってくるので、今後そのデータを活用することで、歯周病などの口腔保健の向上に資するのではないか。愛知県としては特定健診のデータ分析の中で、そういうものを全国で先駆けて分析して、地区別に見ることや対策を講じることも可能なのではないか。平成30年度からデータは集まるのはわかっているので、それに向けて準備をしていく。

○平成30年度から特定健診の問診方法が変わるということで、そういったデータはぜひ分析の方で活かしたい。指標として活用できるものであれば、検討の一つとして考えていきたい。